クローズアップ
CLOSE UP

（財）大阪国際平和センター
理事長

岡本（おかもと） 知明（ともあき）さん

プロフィール

1929年、愛媛県生まれ。48年、大阪中央電報局に就職。同時に労働組合員となり、52年以降は組合役員として活動した。73年総評大阪地方評議会副議長、76年同事務局長。84年から85年まで同議長。同年5月からの大阪労働者福祉協議会会長を経て89年に（財）大阪国際平和センター理事長に就任、現在に至る。他にNHK放送番組審議会委員、大阪府同和問題解決推進審議会会長代理などを歴任。受賞は長年の労働運動への貢献に対する大阪府知事表彰（85年）、大阪市民表彰（90年）ほか。

戦争というのは、重い荷物を残していくものなのです

戦争の悲惨さや平和の尊さを次世代に伝える施設、大阪国際平和センター（ピースおおさか）では現在、「平和を願うモニュメント」の整備のため、一般からの募金を呼びかけている。同計画は、ピースおおさかが、1944年12月から翌年8月14日にかけての大阪空襲による府内の被害を約1年半かけて調査し、8658人の死没者名簿を作成したのを機に、名簿を収納するためのモニュメントを整備し、犠牲者の追悼と恒久平和を祈念することを目的としたものだ。

「完成は、戦後60周年の節目となる来年の8月15日を予定しています」と話すのが、大阪国際平和センター理事長の岡本知明さん。イメージパースを示しながら「約2千万円の経費は、府民の浄財で賄いたい。平和基金として協力していただき、ピースおおさかを訪れて頂くことで大阪空襲の悲惨さを風化させず、家庭の中で平和について語っていただくきっかけにもなれば」ー。

岡本さんは、愛媛県松山市で生まれた。44年、16歳で山口県防府市の海軍通信学校へ入隊。45年に配属先の東京通信隊で終戦を迎えている。「終戦3ヵ月後に松山に帰ったのですが、焼け野原でした」。就職のため大阪に出てきたのは2年後の47年。講習所での電信教科をマスターし、翌年、大阪中央電報局入りしている。

就職と同時に、労働組合員となる。22歳で組合役員に就任し、以降は主として労働運動の分野で活動。特に73年から84年にかけては大阪総評の顔として副議長、事務局長、議長を歴任した。

平和運動もまた、労働運動の中で重要なステージだった。「最初に出会ったのが、70年からのベトナム戦争反対闘争。73年は金大中さんの拉致事件と、彼が韓国に帰ってからの死刑判決に対する救出と死刑反対運動。核兵器の廃絶も大きなテーマでした」。

その岡本さんが言う。「過日来館したベトナムの元外務大臣が、『ベトナムでは枯葉剤の後遺症が2世3世に発症しているため、関連として広島で原子爆弾による原爆症を学び、またイラク戦争に使われた劣化ウラン弾の後遺症も学びたい』と話していました」と。そして「戦争というのは、そういう重い荷物を残していくものなのです。日本の原爆症、ベトナムの枯葉剤、イラク戦争などの劣化ウラン弾…。そして大阪空襲もそうですが、犠牲者はいつも女性や子どもたちなのです」と顔を曇らせる。

「昨年末に訪問したベトナムでは、デンマークが医学的な協力をしていました。日本も原爆症で先進的な医学技術を持っているのですから、医学協力なども今後若い人たちが目指してほしい分野ですね」。

6月に満75歳を迎えた。健康法は「階段を恐れず、ひとつ手前の駅で降りて目的地まで歩くこと」と、「早朝に近所のお年よりと楽しむゲートボール」と目を細める。「小学2年生の孫がね、“ゲートボールの天才少年”のタイトルでテレビの取材を受けたほどの腕前。この孫には私も太刀打ちできません（笑）」。ストライキを指揮して拘置所入りを経験したエピソードを持つかつての闘士も、今やすっかり好好爺である。

（文・脇本勤／写真・高島悠介）